むさしのTALK

ジャズトランペット奏者

市原ひかり さん

昔からいる人も新しい人も受け入れてみんなでハッピーになっていく武蔵野市はそんなまちであってほしい

色彩豊かな音色でファンを魅了するジャズトランペット奏者の市原ひかりさん。小・中・高の多感な時期を武蔵野市で過ごした市原さんにとって、武蔵野市の人や風景は今も表現活動に大きな影響を与えているようです。

出身は武蔵野市ではないのですが、小・中・高と武蔵野市内の成蹊学園に通っていました。青春時代の思い出のすべてが武蔵野市につまっていて、今でも地元のような気持ちでいます。成蹊には、自分から通いたいと希望したと両親から聞きました。たまたま車で五日市街道を通った時、成蹊のけやき並木が目に入り、校舎の夜景がお城みたいにきれいで、「ここに行きたい」と言い出したそうです。

私の父がプロのドラム奏者（市原康さん）で、アニメの『ルパン三世』をはじめ、映画やCM音楽の演奏もしていたので、小さい頃からレコーディングスタジオにはよく遊びに行っていました。小学4年生の時、あるイベントで見たトランペット奏者の吹く姿と音色に魅せられて、中学で吹奏楽部に入って本格的にトランペットを始めました。

私は覚えていないのですが、入部する時、先輩たちに「私はプロのトランペット奏者になりたい」と宣言したらしいのです。成蹊の吹奏楽部は中高一貫だったので高校3年生の先輩が指導をしてくれることになり、おかげで上達も早かったと思います。

中学・高校では音楽にのめり込む日々でしたが、私の個性を温かく見守り、応援してくれる雰囲気のおかげで、のびのびと学園生活を送ることができました。高校時代は友だちと近くのラーメン店に行ったり、井の頭公園で鬼ごっこをしたり。成蹊から吉祥寺駅を挟んで井の頭公園へと続く一帯が、今も心象風景のように心に広がっています。2008年に発表した『JOY』というアルバムの中の『Home』という曲は、武蔵野市の風景を思って作ったものです。武蔵野市で過ごした穏やかで優しい時間が、メロディーや音色に反映されているような気がします。

吉祥寺といえば、私も時々出演させていただく老舗ジャズクラブ「サムタイム」は、武蔵野市の良さの象徴ではないでしょうか。昔からの常連さんもいれば、若い人も気軽に入れる敷居の低さもあって、そこで本格的なジャズのライブが味わえる。温かい雰囲気の中で、昔からいる人も、新しい人も受け入れて、みんなでハッピーになっていく。武蔵野市はそんなまちであってほしいし、私もそんな音楽家でいたいです。

市原ひかり（いちはら ひかり） 1982年生まれ。成蹊学園小学校・中学校・高校卒業。2005年、洗足学園音楽大学ジャズコースを首席で卒業し、アルバム『一番の幸せ』でプロデビュー。セカンド・サードアルバムが連続で『スイングジャーナル』誌選定ゴールドディスクを獲得。近年ではボーカルにも挑戦し、絵画にも力を入れるなど表現の場を広げて活躍中。